

# 第1回 山と自然の聖地研究会

古来より日本人は“山”を聖地として畏敬し、崇拝してきました。“山は神であり、神々の住む処”でした。人々は山と自然を守り、適正に利用することで地域の安全や山からの恵みを生活の糧にしてきました。

いま、山での開発が進み自然災害が多発するなかで、山での人々の行動と山や自然との適正な関わりを求められています。そのため、山でのマナー・ルールを徹底し、行動を規制する一方、山への畏敬の念や自然への感謝の気持ちを掘り起こし、普及させることも大きな力になると思われます。

そこで、山と自然の聖地に関する歴史や文化、施策を学び、“自然崇拝”の再評価、山での精神文化の高揚を図る必要があります。山の自然と文化の社会的な価値の認識を深め、入山行動につなげることを目的に開催致します。

## ■ 開催概要

(日時) 4月28日(月) 18:00 ~ 20:30

(会場) ニュー新ホール会議室 (ニュー新橋ビル B2F)  
東京都港区新橋 2-16-1 (JR新橋駅前)

(主催) 山と自然の聖地研究会

(講師) ・古田尚也氏  
(IUCN 日本プロジェクトオフィス)  
・山と自然の聖地研究会チーム

(参加者) 30~50名程度

(参加費) 1,000円(資料代)

(会場へアクセス) 下図による。



[JR 新橋駅]

新橋駅鳥森口徒歩3分

[地下鉄]

都営浅草線・営団銀座線

■ 問合せ： 山と自然の聖地研究会

小川(おがわ) (090-8300-4856)、上(うえ) (090-7904-9096)

■プログラム

17:50	受付	
18:00	開会あいさつ	石倉昭一(山と自然の聖地研究会チーム)
18:10	来賓あいさつ	鳥居敏男 (環境省国立公園課長)
18:20	開催までの経緯	上幸雄(NPO 法人山の ECHO 代表理事)
18:30	“自然の聖地”とは何か 国内外の動きと今後への期待	古田尚也(1U C N 日本プロジェクトオフィス)
19:20	「山の神々」と自然保護活動	紅葉淳一(山と自然の聖地研究会チーム)
19:40	<フリートーク> 山と自然の聖地活動に向けて	全員参加
20:00	閉会	

閉会后、懇親会を開催します。

■ 参加申込み先

F A X の場合      03-6809-1412      (特定非営利活動法人山の ECHO 内 山と自然の聖地研究会)  
 メールの場合      ogawa@alpine-tour.com      (小川 山と自然の聖地研究会事務局)

..... 参 考 .....

神聖視されている自然の地域は地上の至る所にある。自然の神聖視は、ほとんどすべての国で見ることのできる広く一般的な現象である。世界には数千という信仰制度があると考えられており、その多くに自然保護に関する倫理が含まれている。

( I U C N ガイドライン 自然の聖地 p6 「はじめに」 から)



日本の聖地のゾーニング

日本の総体的な伝統的土地利用ゾーンは、奥山(高地の聖なる山)と里山(持続可能な管理下にある森林をもつ山の緩い斜面)、人里(開墾され、広く住民が居住する農耕地)の3つの主な地域で成り立つ。人里のなかには、鎮守の森と呼ばれる寺や神社が建てられた小さい聖なる森が多数あり、その地域の生物多様性の貯留地となっている。日本人は自然界の神(800万ほどの神がいるとされる)を崇拝し、鎮守の森は神聖な雰囲気や自然と人間性の調和・共存を保つ重要な要素として機能する。経済的成功と物質主義を重要視する最近の日本の生活スタイルの変化は、この日本列島の総体的な考え方に優先され、これを損なった。鎮守の森が象徴する我々の先祖が確立した神聖な枠組みを再考することも持続可能性の斬新かつ迅速な追求に有意義であろう。

出所岩槻 2005年、2007年

( I U C N ガイドライン 自然の聖地 p44 「1.3 認識」 から)